

海外研修レポート

産業課 主幹 石川 秀二

「平成29年度市町村職員外国派遣研修」が9月11日(月)から21日(木)11日間の日程で行われ、福島町からは産業課の石川主幹が参加しました。

本研修は、ヨーロッパの地域振興・社会福祉・環境対策を学ぶことをテーマに実施されました。11月号と12月号に分けて研修内容を報告いたします。

6月のある日、ヨーロッパ(フランス・ドイツ・オーストリア)への研修参加を宣告され、気持ちの整理がつかないまま、泣く泣く研修準備を進めました。

8月には「事前研修」が行われ、道内各地から20人が集結。志願・指名など、動機は様々ですが、皆さん優秀で頼りになりそうな方々でしたので、安心しましたが、注意事項で「スリ・置き引きに注意!」など、治安の不安定さを物語る説明が多々あり、参加への気持ちは不安定なままでした。

9月、仕事の整理と研修準備、そして肝心の気持ちの整理を直前まで行い、11日福島を出発、翌12日正午頃に日本からパリまで12時間におよぶ長い飛行で、現地時間夕方5時頃に無事到着。時差はマイナス7時間でしたが、長時間移動の疲れで、時差が何かというのを感じとれませんでしたが、本格的に研修がスタートしました。

【フランス】研修一カ所目、地域コミュニティ活動「隣人祭り」を研修。住民主導で地域での集まりの機会を増やし、孤独死などを防止するという

もの。多くの地区で普及し、参加者も増加傾向とのこと。国で指定している時には、用具貸し出しなど自治体も協力しているとのこと。

二カ所目、「食」をテーマに地域振興をする「味の景勝地」制度を研修。「クレソン」でその認定を受けた街を訪れました。あまりなじみがない野菜ですが、高い栄養価を持つ野菜で、その栽培を新たな地域産業として定着させており、食の持つ力は大きいと感じました。



視察は、パリの街並みを主に車中から見学。建造物全てがおしゃれな雰囲気、その他都市と比べても別格。ただ、時間の都合上、エッフェル塔

など象徴的な名所をほぼ見る事ができなかったことが残念でした。

テロの影響なのか、観光名所やショッピングモールなどには、銃をもった警備が敷かれていて物々しい雰囲気も感じられました。

【ドイツ①】研修3カ所目、環境対策「エネルギーパスの認定」を研修。家の燃費を事前に把握し、不動産取引時にその性能を明示することで、環境対策につながる住宅の普及が市民に浸透、また、古い建物の改修も増加し、地域産業への波及にもなったとのこと。

視察は、日本人が多く在住するデュッセルドルフで、視察中も多くの日本人を見かけ、若干の安心感がありました。ヨーロッパの多くは、建築物の高さや外壁色などを統一するなどのルールがあるらしく、統一的に立ち並ぶ建造物の風景は見応え充分。

【オーストリア】研修4カ所目、森林管理の重要資格を研修：のはずでしたが、先方との概要相違があり、終始、林業の説明。担当班は質問など苦労していました。5カ所目、私の班が担当するペレット燃料

の研修で、化石燃料からの脱却を国が進めており、ペレット燃料の需要が成長著しい。ボイラー購入助成や燃料費負担減少のメリットを中心に想定していたが、「CO2の排出が減少する。」ことを住民自体が一番のメリットと感じていると伺い、環境問題に強い思いをもって取り組んでいることに大きな驚きを感じました。



視察は、まずカプルーンで、氷河・山脈・湖の美が一カ所に集まっている街で、まだ氷河はないが、その景色は圧巻でした。また、スキー日本代表も毎年合宿を行っており、雪も充実した地域です。

(12月号へ続く)